

# 中学校第3学年 英語科 学習指導案

期 日 平成25年10月25日(金)第5校時  
 場 所 山鹿市立山鹿中学校 3年5組教室  
 指導者 教諭 田崎 英明  
 ALT Huy Tran

## 1 単元名

「Program 7 What Is the Most Important Thing to You? 」(SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 開隆堂)

## 2 単元について

### (1) 単元観

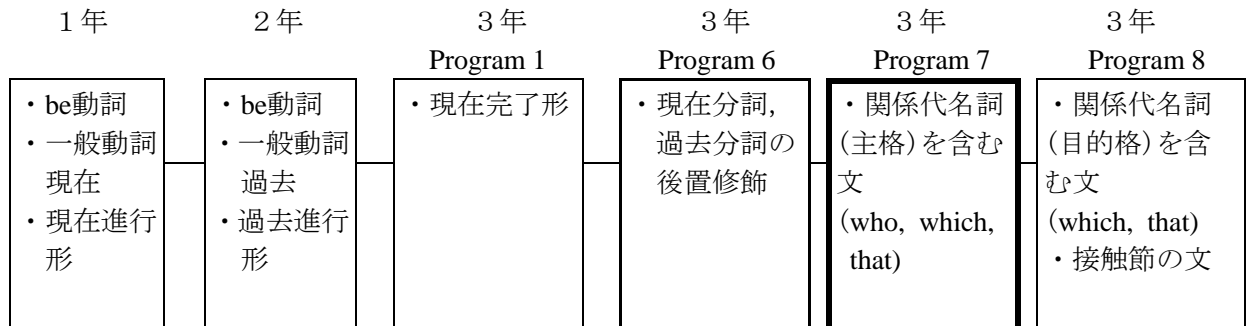
本単元は、世界中でボランティア活動を行いながら途上国を支援し、途上国のために働く意欲のある人材を育成するための取組を続ける国際協力師、山本敏晴さんの活動について学ぶ。また、山本さんが取り組んでいる「お絵かきプロジェクト」を通して、アフリカや南太平洋の途上国の現実を知り、夢や希望を持って生きる子どもたちの描いた絵に込められた力強いメッセージを読み取ることで、本当に意味のある国際協力とは何か、また私たち一人ひとりに何ができるのかを考えさせることができる題材である。

本単元の新出言語材料は、関係代名詞(主格)の **who, which, that** である。これらは、人や物について詳しく説明するために多用され、この言語材料を活用することで表現の幅を広げることができる。また、これまでに学習した分詞の後置修飾に類似している点が多く、この既習事項と関連付けながら学習させることで、英語による人や物のより詳しい説明の仕方を身に付けることや、豊かな表現力を育成することが期待できる。この単元での言語材料の使用場面は、「b 生徒の身近な暮らしにかかわる場面」であり、「言語の働き」としては、「c 情報を伝える」のうち「説明する」「報告する」「発表する」などの言語活動に当たる。

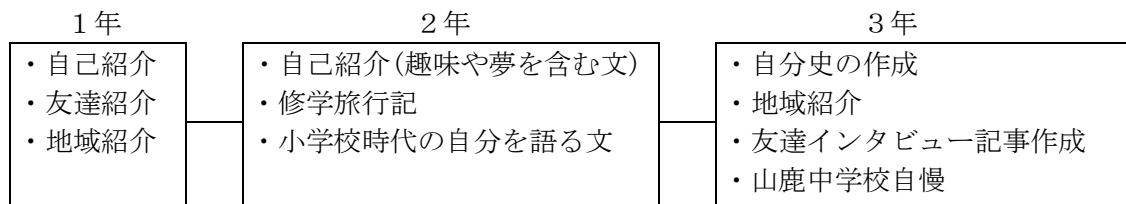
**Speaking 5** の題材は、隆志が靴を買うために訪れる靴店での対話である。店員に自分が探しているものを正しく伝えたり、店員の説明や助言を聞きながら自分が本当に欲しい商品を確定したりするなどの言葉のやり取りを通して、英語でコミュニケーションを図ることを十分楽しませることができる題材である。

### (2) 系統観

言語材料の系統性



言語活動の系統性



### (3) 生徒観

○本学級の生徒は3年5組と3年6組の生徒のうち、英語に対して苦手意識をあまり持っていない生徒で構成されている。授業に真面目に取り組む生徒が多く、提出物もきちんと揃い、忘れ物もほとんど

ない。家庭学習が定着しており、授業中は意欲的に発言したり学習課題に取り組んだりしている生徒が多い学級である。英語に対する自信を持たずに、自分の思いを発表することに躊躇しがちな生徒も見られるが、お互いに協力しながら言語活動に取り組んでおり、学習意欲は高まってきている。

○英語学習に対する意識調査の結果 調査日:平成 25 年 8 月 30 日 調査対象:36 人 単位:%  
ア、あてはまる イ、まあまああてはまる ウ、あまりあてはまらない エ、あてはまらない

アンケート項目(一部抜粋)	ア	イ	ウ	エ
1 英語は好きな教科である。	52.8	30.9	13.9	2.4
2 「話すこと」は好きである。	16.7	50.0	33.3	0.0
3 「書くこと」は好きである。	13.9	27.8	50.0	8.3
4 英文を書くとき、文と文とのつながりを考えて書いている。	30.6	55.6	13.8	0.0
5 英文を書くとき、文をつなぐ語( and, because, if, when など の接続詞)を使うことを意識している。	30.6	52.8	16.6	0.0
6 英文を書くとき、代名詞を使うことを意識している。	19.4	41.7	27.8	11.1

8月に実施した意識調査によると、8割以上の生徒が英語学習に対して「好き」または「まあまあ好き」と回答しており、英語の学習に好意的であることが分かる。また、「英語で話すこと」に関しては約67%の生徒が「好き」または「まあまあ好き」と回答しているが、「書くこと」に関しては同じ項目で約42%となっている。日頃の帯学習等における対話練習を通して、「話すこと」に前向きな生徒が多くなっているが、「書くこと」に関しては、まだ自信を持っていない生徒の姿が見える。英文を書く際には、文と文とのつながりを考えたり、接続詞を適切に使うことを意識したりしている生徒が8割を超えている。「まとまりのある英文を書くこと」の継続した指導を通して、論理的に表現するための技術を身に付けつつあることが分かる。一方で、英文の結束性を高める「代名詞の適切な使用」を意識している生徒は約6割にとどまっている。

【レディネステストの結果(一部抜粋)】〈調査日 平成 25 年 10 月 11 日 調査対象:37 人〉

1. 次の日本語を表す英文を作りましょう。

(1) あの男の人は誰ですか。(that/is/who/man/?)

正解者 36 人 誤答例 Who man is that?(1 人)

(2) 木の下にいる少女を知っていますか。(the tree/under /the girl/you/ do/ know/?)

正解者 37 人

(3) ベンチに座っている少年は私の兄です。(is/ on /the boy/ sitting/my brother/the bench)

正解者 28 人 誤答例 The boy is my brother sitting on the bench.(7 人)

The boy on the bench sitting is my brother.(2 人)

2. ( )に適切な英語を書き入れよう。

(2) I have a sister. ( ) is a high school teacher. 正解者 34 人 誤答例 Her

(3) I have many CDs. I like ( ) very much. 正解 them(14 人) music(10 人)

誤答例 it(12 人) they(1 人)

○レディネステストの結果を見ると、疑問詞を含む疑問文に関してはある程度の定着が見られるが、分詞の後置修飾については、誤答が見られた。また、代名詞の使用については特に they や it について十分習得できていない実態があることが分かる。

(4) 指導観

○1年時から「基礎・基本の徹底」、「英語で伝え合う力の育成」及び「英語補充学習」の三つを重点目標に置いてきた。そのため、授業(50分)のうちの最初の10分を基礎・基本の定着の時間と位置付けて、基本文の英作文テストを繰り返したり、既習事項の言語材料を使った自己紹介や友達紹介を書く活動を、学期毎に取り入れたりしている。また、既習事項が定着していない生徒については、個別指導(昼休み)を行ってきたため、少しずつではあるが確実に力を付けており、今後も継続して表現力等を高めていきたいと考えている。本題材を扱う際も、前述の三つの重点目標を総合的にとらえた授業を展開したい。また、人権教育における「学力向上」及び「支え合う仲間づくり」とも関連して、特に次の2点が達成できる授業を展開したい。

- ① 生徒全員が、最低2回は一人で英語を言う(読む)場を設ける。
- ② だれもが生き生きと活動できるようなコミュニケーション活動を取り入れる。

- 毎時間の帯学習では、既習事項をスパイラルに活用することに主眼を置いた言語活動を継続的に実施している。本単元でも新出事項だけの練習にならないように復習を十分行いながら、情報を伝え合う言語活動に取り組ませたい。
- 英語を得意とする生徒を必ず学習グループに配置し、学び合いの学習がより深まるようにしたい。
- 内容の一貫性や接続詞の適切な使用を意識させるとともに、「代名詞の適切な使用」に視点を置いたライティング活動を単元に位置付けて、まとまりのある英文を書く力を育成したい。

【視点1】 思考力・判断力・表現力等の育成	【視点2】 学習評価と指導の改善	【視点3】 情報活用能力の育成
<p>【視点1】 本単元では、ペアやグループで、一つのトピックについて対話をする活動や「山鹿中学校の自慢(人・物編)をALTの先生に伝える」学習課題を設定している。これらの言語活動において、お互いの情報や意見・考えを伝え合い、発想を広げる活動を行い、豊かなかわり合いのある授業を目指す。また、お互いを評価・改善する活動を通して、論理的な思考力等を育成する。</p>	<p>【視点2】 本単元では、自分の意見・考えを英文でまとめ、さらにお互いの文章を、より説得力のあるものにするためのポイントを基に、英文を評価・改善する活動を通して、生徒の思考の過程を評価する授業を目指す。その際、まとまりのある英文を書くための知識や技術を習得しているかを評価し、指導の改善につなげる。</p>	<p>【視点3】 本単元では、英文を書くための情報を収集させるために、クラスメイトにインタビューさせたり、提示された絵や写真を活用させたりするなど、主体的な情報活用を促す授業を目指す。また、より論理的な文を書くために、集めた材料を分類・整理しながら工夫する言語活動を取り入れ、生徒の情報活用能力の育成を図る。</p>

3 単元の目標と評価規準(参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」)

単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○山本敏晴さんの活動について、本文の内容を正しく読み取ることができる。</li> <li>○関係代名詞(主格)who, which, thatの文構造・意味・用法を理解することができる。</li> <li>○関係代名詞や既習事項を活用しながら、まとまりのある文章を書き、発表することができる。</li> <li>○買い物で用いる定型表現を理解し、場面や状況に応じて適切に話すことができる。</li> </ul>
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①積極的に人や物について書いたり発表したりしている。</li> <li>②買い物の場面で必要な情報を積極的に伝えたり、尋ねたりしようとしている。</li> </ul>
外国語表現の能力	関係代名詞を用いて、人や物を説明するまとまりのある英文を書くことができる。
外国語理解の能力	山本敏晴さんのボランティア活動や、世界の子どもたちの考えの違いについて内容を正しく理解することができる。
言語や文化についての知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>①関係代名詞(主格)の文構造・意味・用法を理解している。</li> <li>②買い物でよく使用される語彙や文の意味及び文構造を理解している。</li> </ul>

4 指導・評価の計画(8時間取扱い 本時1/8)

次時	学習活動	指導上の留意点 【三つの視点から】	評価の観点(評価方法) B基準
1 1(本時)	○関係代名詞who(主格)の文構造・意味・用法を理解し、これを使ってクラスメイトを紹介する文を書く。	・新出言語材料だけでなく、既習の言語材料、特に代名詞や接続詞等を適切に使いながら、まとまりのある文章を書かせる。 【視点1】お互いの情報や意見等を伝え合ったり、他のペアの英文に対するアドバイスをしたりする活動を通して、考えを深めさせる。 【視点3】インタビューすることによって、クラスメイトの情報を収集・整理させる。	知識・理解①(ワークシート) 関係代名詞who(主格)の文構造・意味・用法を理解している。 表現の能力(ワークシート) 関係代名詞や既習事項を用いてクラスメイトを紹介する文を、まとまりのある4文以上の英文で書くことができる。
	○Program7-1の本文の内容を理解する。	・関係代名詞(who)節が何を説明しているかを把握しながら、本文の内容を読み取らせる。	理解の能力(ワークシート) 本文の内容について正しく読み取り、質問に答えることができる。
2 3	○関係代名詞which(主格)の文構造・意味・用法を使って、身の回りの物を説明する英文を書く。	・新出言語材料だけでなく、既習の言語材料、特に代名詞や接続詞等を適切に使いながら、まとまりのある文章を書かせる。 【視点3】英文を書くための情報を、提示された写真や絵などから収集・分類・整理させ、活用させる。	知識・理解①(ワークシート) 関係代名詞which(主格)の文構造・意味・用法を理解している。 表現の能力(ワークシート) 関係代名詞や既習事項を用いてまとまりのある4文以上の英文を書くことができる。
	○Program7-2の本文の内容を理解する。	・関係代名詞(which)節が何を説明しているかを把握しながら、子どもたちの絵に込められたメッセージを読み取らせる。	理解の能力(ワークシート) 本文の内容について正しく読み取り、キーワードを基に概要を説明することができる。
3 5	○関係代名詞 that(主格)の文構造・意味・用法を理解し、これらを使って「山鹿中学校で自慢できる人・物」について紹介する英文を書く。	・新出言語材料だけでなく、既習の言語材料、特に代名詞や接続詞等を適切に使いながら、まとまりのある文章を書かせる。 【視点1・3】学習課題である「山中自慢！」を書くために、グループやペアで話し合いながら発想を広げ、書く材料となる情報をマッピングの手法で収集・分類・整理させる。	知識・理解①(ワークシート) 関係代名詞that(主格)の文構造・意味・用法を理解している。 表現の能力(ワークシート) 関係代名詞や既習事項を用いて、まとまりのある4文以上の英文を書くことができる。
	○Program7-3の本文の内容を理解する。	・関係代名詞(that)の用法を確認しながら、山本氏が「お絵かきイベント」で何をしようとしているかを考えさせる。 【視点1】山本氏の活動の意図や自分たちにできることを、グループで話し合いながら考えを深めさせる。	理解の能力(ワークシート) 本文の内容について正しく読み取り、質問に答えることができる。

4	7	○「山中自慢！(山鹿中学校の自慢したい人や物を紹介する文)」を完成させ、発表する。	・「ライティングのコツ」の視点を基に、まとまりのある英文を書かせる。 【視点1・2】グループで互いの英文を交換し、ペアで英文を評価したり、より分かりやすい英文にするためのアドバイスを考えたりさせる。	関心・意欲・態度①(ワークシート) 積極的に人や物について書いたり発表したりしている。 表現の能力(ワークシート) アドバイスを基に、5文以上のまとまりのある英文を書くことができる。
5	8	○買い物の場面でよく使用される単語や文章を理解し、使用場面に応じて適切に運用する。	・言語の働きや使用場面を意識しながら買い物の疑似体験をさせる。	関心・意欲・態度②(観察) 既習言語材料や買い物の定型表現等を使って、積極的に対話している。 知識・理解②(ワークシート) 買い物の場面でよく使用される単語や文の意味・構造を理解することができる。

## 5 本時の学習

### (1) 目標

自分の周りにいる人物について、関係代名詞を含む文を加えながら書くことができる。

### (2) 展開

過程	学習活動	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 【三つの視点から】	備考
導入 10分	1 既習事項の確認をする。 (1) Greeting (2) Warm Up Picture Describing	○Who is that man? ○Which man do you mean?	○既習事項である分詞の後置修飾を使いながら、写真の人物を3文以上で説明する。	PC 電子黒板
展開 35分	2 クイズ”Who is this person?”の原稿を作る。 (1) 本時の課題を確認する。  (2) Pattern Practice 多くの例文を通して文構造を理解する。	○Listen to us carefully and guess. (ex.)A: You mean the girl running over there? B: No. I mean the girl who has long hair. ○Let's practice.	○二人の会話全体の内容をつかませる。 ○動詞句カードを活用しながら関係代名詞を含む文章を作り、口頭で繰り返し練習する。 ○ALTとモデルを示しながら、活動の仕方やポイントを説明する。  評価：知識・理解①(ワークシート・観察) [B基準]関係代名詞(who)を使って、提示された絵の説明をすることができる。  [A基準]関係代名詞(who)を使って、提示された絵を、提示されていない動詞句を適切に付け加えながら説明することができる。  <B基準に達していない生徒への手立て> 英語学習班の中で協働学習をさせたり、個別支援をしたりする。	PC 電子黒板 ワークシート  動詞句カード  ワークシート

	<p>(3) Communicative Activity 関係代名詞を使いながらお互いにインタビューをし合い、クラスメイトの情報を集める。</p> <p>(4) Writing活動 集めた情報を基に、クイズの原稿を英語で書く。</p>	<p>○Let's do a communicative activity.</p> <p>○Make a quiz about your classmates.</p> <p>○集めた情報を整理し、ピア・フィードバックの視点を確認しながら、まとまりのある文章を書かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈ピア・フィードバックの視点〉</p> <p>①関係代名詞(who)を適切に使用している。</p> <p>②代名詞を適切に使用している。</p> <p>③自分の考えや感想を書いている。</p> <p>④分かりやすい英文になっている。</p> </div>	<p>【視点3】クラスメイトにインタビューしながら、書く材料となる情報を主体的に収集・整理できるようにする。</p> <p>○生徒の活動と一緒に参加し、生徒の定着状況、つまづきを把握する。</p> <p>○既習事項の英文やつなぎ言葉を例として提示する。</p> <p>○代名詞の適切な使用を意識させながら、既習事項の接続詞等を使わせたり、文の順序を考えさせたりする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価：表現の能力(ワークシート)</p> <p><b>B基準</b>関係代名詞(who)を使って、クラスメイトに関する英文を、4文以上書くことができる。</p> <p><b>A基準</b>関係代名詞(who)を使って、クラスメイトに関する英文を、自分の感想などを含めて5文以上書くことができる。</p> <p>〈B基準に達していない生徒への手立て〉 英語学習班の中で協働学習をさせたり、個別支援をしたりする。</p> </div>	<p>ワークシート</p>
<p>整理 5分</p>	<p>3 Peer Feedback活動 ピア・フィードバックの視点を基に、ペアで話し合いながら、お互いの英文を評価し、アドバイスを行う。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【言語活動】 お互いの英文を視点を基に評価し、より分かりやすい英文にするためのアドバイスを考えることを通して、論理的思考力等を育成する。</p> </div>	<p>○ピア・フィードバックの視点を基にお互いの英文を読んで、より分かりやすい英文にするためのアドバイスをしましょう。</p>	<p>○より分かりやすい文にするための前向きなアドバイスをするように指導する。</p> <p>【視点1】ペアで意見を交換したり検討したりすることで、考えを深めさせる。</p> <p>【視点2】より分かりやすい文にするためのアドバイスを考えて記録することにより、論理的思考力等を見取り、指導の改善につなげる。</p>	<p>ワークシート</p>
	<p>4 Consolidation (1) 本時の授業内容を振り返る。 (2) 本時の授業の自己評価を行う。</p>	<p>○Let's try these questions.</p>		